

"The Legacy of Adversity: Tracing Molecular Pathways to Mental Health Across the Lifespan"

Prof. Patrick McGowan

～経歴～

アメリカDuke大学でPhDを取得したのち、
カナダMcGill大学のMichael Meaney Labでポスドクを経て、
現在は、トロント大学 生物科学部 心理学科、生理学科、細胞
システム生物学科で教授を務める。



2024年4月22日 (月) 13:00～14:00

広島大学 霞キャンパス 共用棟2 3F

脳・こころ・感性科学研究センター カンファレンスルーム

会場までのアクセス→



McGowan先生は、分子神経科学とシステム生物学のアプローチを使って、
生理学とその表現型である行動について、特に、ストレスへの反応に伴って
遺伝子機能変化させる幼少期の環境要因に焦点を当て研究を行っています。
研究対象は実験動物から野生の個体群、そしてヒトへと多岐にわたります。

keywords: molecular, neuroscience, epigenetics, stress, behavior,
neuroplasticity, genomics, gene-environment interactions

※ McGowan先生と研究discussionの時間を個別に設定することも可能です。大学院生やポスドクなど若手への教育的機会(プレゼンや英語へのアドバイス、研究についての議論)も希望されております。希望される方がいらっしゃいましたら、日程調整をいたしますのでご連絡ください。



広島大学 Hiroshima University
脳・こころ・感性科学研究センター
center for Brain, Mind and Kansei sciences research

問い合わせ先: 大村 (霞 6722)
nami-ohmura@hiroshima-u.ac.jp